

証券コード：7681



株式会社 レオクラン

# 2022年9月期第2四半期 決算補足説明資料

2022年6月3日



# 決算サマリー

## <2022年9月期2Q>

### 増収減益

主力のメディカルトータルソリューション事業は新增改築案件が好調も、損益は戦略的な低採算案件計上の影響

### 上期集中

前期に続き、案件の売上計上は上期集中型。通期見通しに対する進捗率も高水準に

## <2022年9月期通期見通し>

### 据置き

従来想定据置き、前期比増収増益を予想。半期別には売上集中の反動から、下期は対上期比で減収減益の見通し

### 狩猟型補完

情報システムや予防医療など、狩猟型モデルである新增改築案件を補完するストック的色彩の濃いビジネス拡大に注力

 目次

1	2022年9月期第2四半期決算実績	3
2	2022年9月期決算見通し	11
3	ビジネス環境と当社の対応	19

1

2022年9月期第2四半期決算実績



## 2022年9月期第2四半期 経営成績①

- 対前年で増収減益。前期に続き、案件の売上計上は上期集中型となり、通期見通しへの進捗率も高水準に
- 主力のメディカルトータルソリューション事業では新增改築案件の集中により増収確保。ただし、戦略的視点から獲得した利益率の比較的低い案件が影響し、営業利益は若干の減少
- 遠隔画像診断サービス事業は取扱件数増もあり堅調に推移。給食事業は大口顧客解約の影響が発生

### 経営成績の推移

(百万円)	2021/9期 2Q実績	2022/9期2Q		2022/9期通期	
		実績	前年同期比 増減率	予想	進捗率
売上高	16,878	18,756	+11.1%	27,759	67.6%
メディカルトータルソリューション	16,316	18,225	+11.7%	26,694	68.3%
遠隔画像診断サービス	327	331	+1.2%	645	51.4%
給食	235	199	▲15.4%	420	47.4%
営業利益	850	771	▲9.3%	750	102.9%
メディカルトータルソリューション	781	724	▲6.7%	666	109.4%
遠隔画像診断サービス	45	40	▲10.1%	74	55.4%
給食	22	4	▲81.1%	10	41.9%
調整	1	1	▲4.6%	—	—
経常利益	862	824	▲4.5%	800	103.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	588	545	▲7.2%	520	105.0%
1株当たり当期純利益 (円)	301.15	278.45	▲22.7円	265.32	—

## 2022年9月期第2四半期 経営成績②

- 四半期別には、対前年、対1Q、いずれも減収減益。当期は特に大型案件の1Q集中の反動が影響
- 売上計上案件の多寡で業績に一定のボラティリティが存在するのは「狩猟型収益構造」の特性。それが当社の付加価値の源泉でもあるが、直近は徐々にそれらを補完するストック型のビジネスも成長

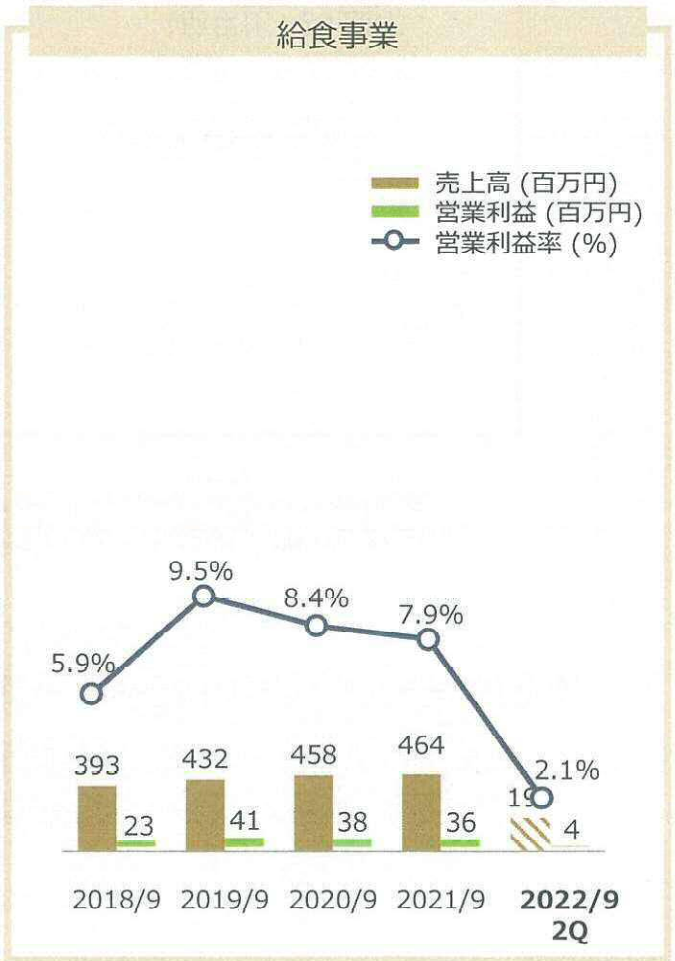
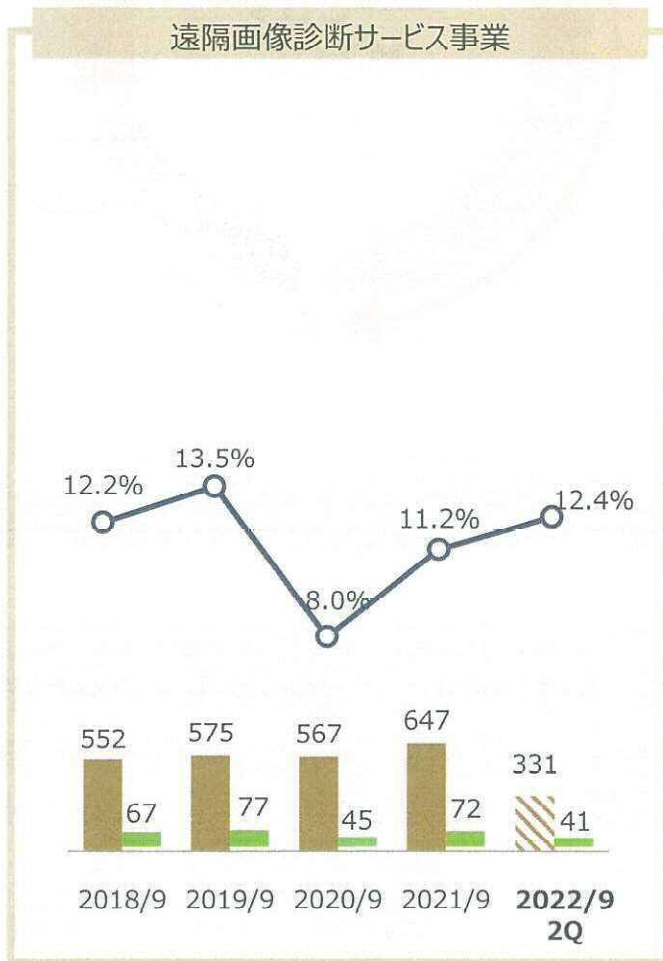
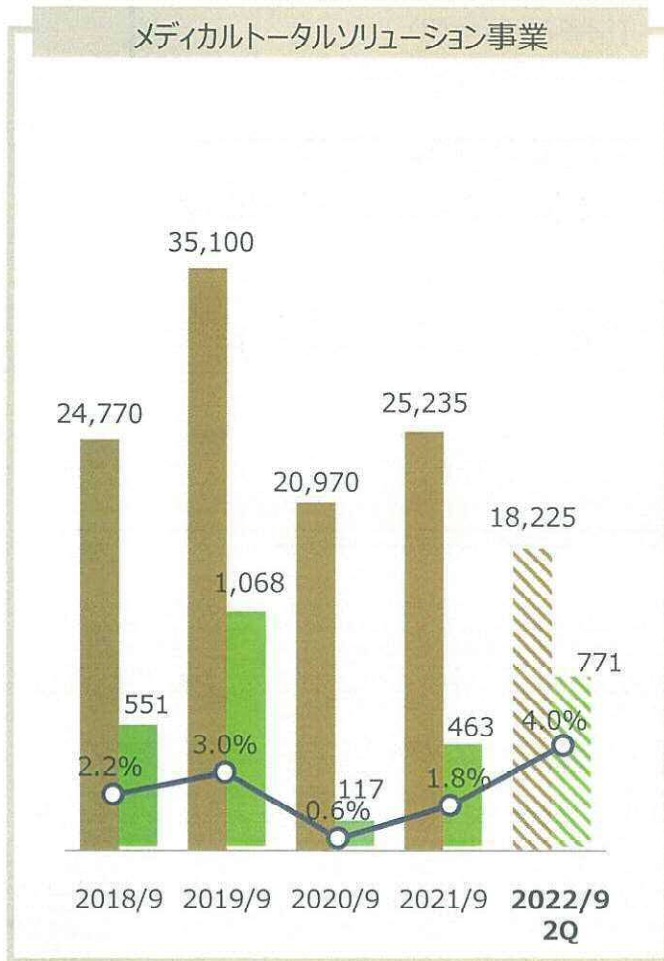
### 経営成績の推移

(百万円)	2020/9期		2021/9期				2022/9期		前年比 差異
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
売上高	3,384	6,272	7,971	8,907	4,593	4,875	10,678	8,078	▲828
メディカルトータルソリューション	3,140	5,999	7,691	8,624	4,321	4,598	10,404	7,821	▲803
遠隔画像診断サービス	124	157	162	164	155	164	172	159	▲5
給食	119	115	117	118	116	112	100	98	▲20
営業利益	▲63	181	405	445	▲64	▲209	529	241	▲203
メディカルトータルソリューション	▲80	159	370	410	▲89	▲228	499	229	▲181
遠隔画像診断サービス	5	13	23	21	16	10	26	14	▲7
給食	11	7	9	12	7	6	2	1	▲10
調整	0	0	0	0	0	0	0	0	±0

※ 上記の四半期会計期間の数値については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく有限責任監査法人トーマツの四半期レビューは受けておりません。

# セグメント別業績推移

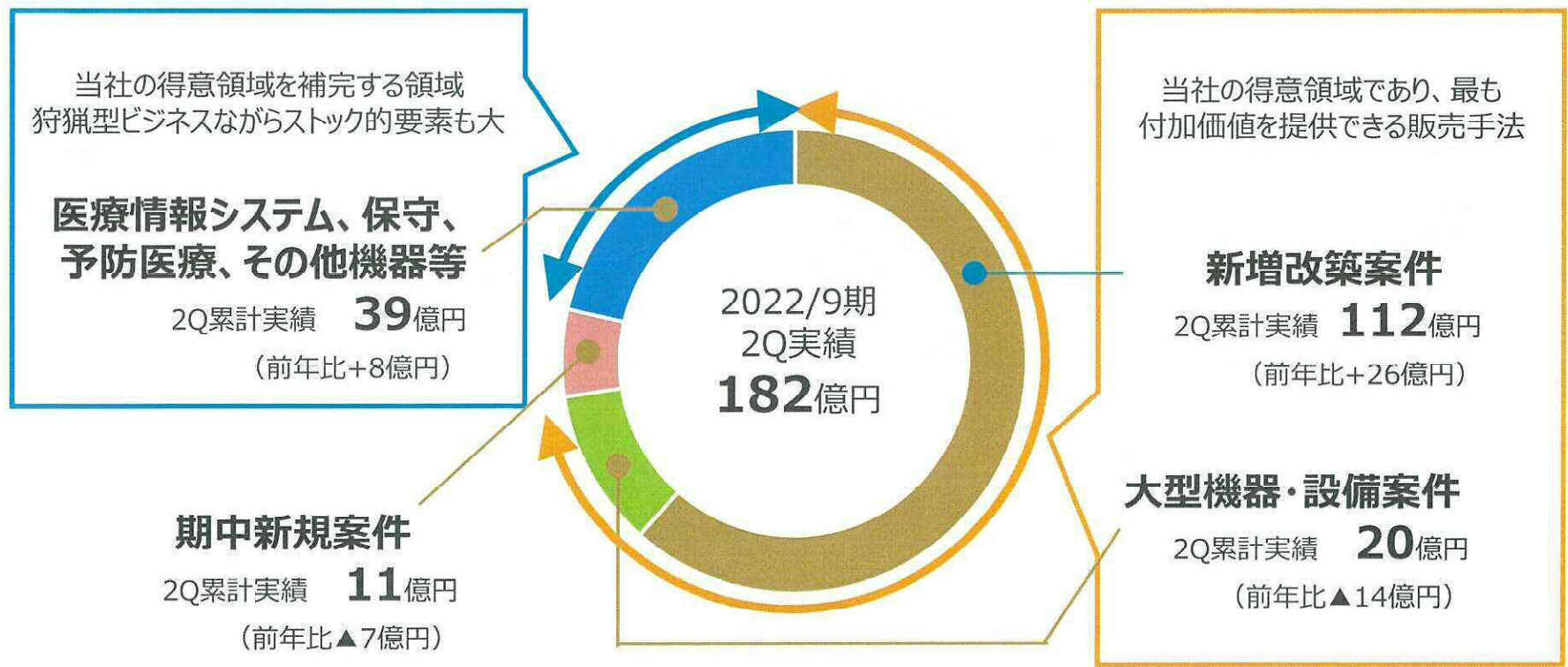
- メディカルトータルソリューション事業では、上期の案件集中もあり、前年通期を越える営業利益を計上。利益率も4.0%まで上昇を達成
- 遠隔画像診断サービス事業は安定的に比較的高い利益率を維持。給食事業は減収に伴う固定費負担重く、営業利益率は直近5期で最も厳しい状況に



# メディカルトータルソリューション事業

- 2022/9期2Q累計のメディカルトータルソリューション事業では、当社得意領域である新增改築案件、大型機器・設備案件が事業売上全体のおよそ72%を占める。売上構成は前年より1.1ポイント減少
- 得意領域を補完するストック的色彩の濃い医療情報システム・保守・予防医療他といったビジネスの売上は、事業売上全体の約4分の1。こちらは狩猟型ながら着実に売上の積上げを実現

メディカルトータルソリューション事業売上の案件別売上内訳





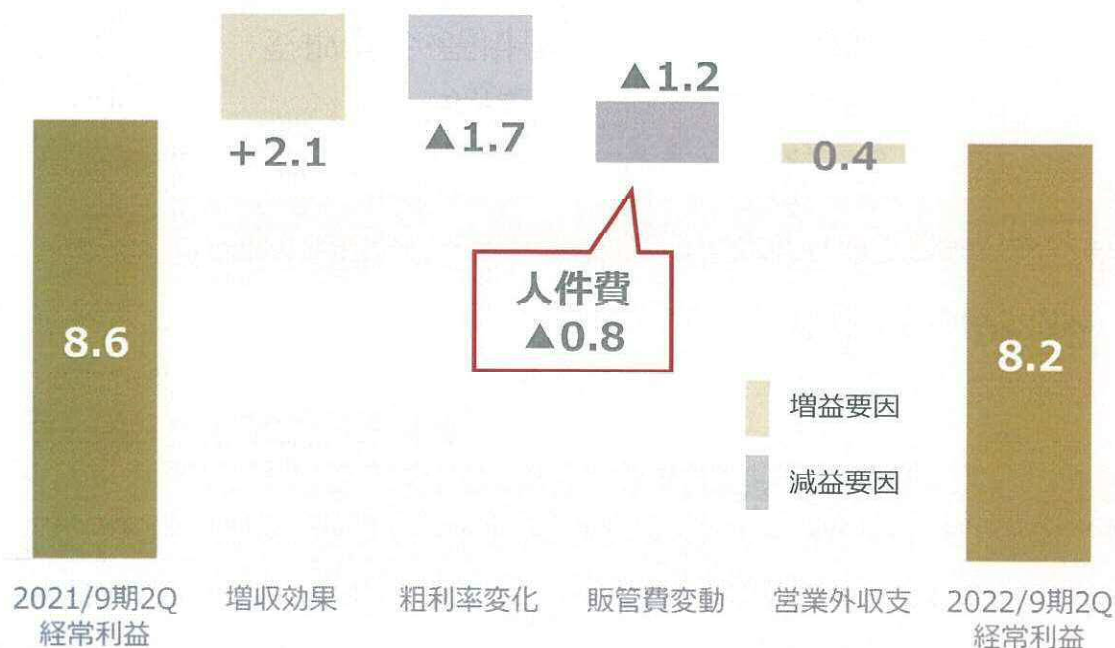


## 2022年9月期第2四半期 営業利益増減要因分析

- 経常微減益の主因は人件費を中心とした販管費の増加と粗利益率の低下。人件費増は収益機会の最大化を目指した営業人員増に伴うもの。粗利率低下は戦略的に獲得した一部低採算案件が影響
- 一方、メディカルトータルソリューション事業を軸に増収効果も発生。これによりマイナス要因を大幅に減殺。人員増は売上増に繋がっており、概して営業スキルの強化向上が進展と認識

### 営業利益増減益分析

(億円)



- 売上高の増加 +2.1億円
  - ・メディカルトータルソリューション事業における一括販売案件が上期に集中
  - ・期中新規案件や下期想定案件の前倒し等も貢献
- 粗利率変化 ▲1.7億円
  - ・戦略的に獲得した一部低採算案件が影響
- 販管費変動 ▲1.2億円
  - ・人件費増 ▲0.8億円

## 2022年9月期第2四半期 財政状態

- 前期末比では大型案件の売上計上集中により、売上債権と仕入債務が両建てで増加。
- その結果、総資産は前期末比31億円（+24%）の拡大。債権債務の状況で総資産は大きく変動
- ネットキャッシュはおよそ60億円。水準は過去最高となり、事実上の無借金経営を継続
- 自己資本比率は35.1%

### 財政状態の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期2Q	前期末比差異
流動資産	12,198	11,755	14,807	+3,052
現預金	4,450	5,408	6,005	+596
受取手形・売掛金	6,652	4,820	7,420	+2,600
棚卸資産	60	188	54	▲131
その他	1,034	1,340	1,327	▲13
貸倒引当金	▲0	▲0	▲0	▲0
固定資産	1,215	1,209	1,248	+38
総資産	13,414	12,964	16,056	+3,091
負債	8,596	7,805	10,426	+2,621
買掛金	6,282	4,890	7,429	+2,539
有利子負債	338	127	104	▲22
その他	1,975	2,788	2,892	+104
純資産	4,817	5,159	5,629	+469
負債純資産合計	13,414	12,964	16,056	+3,091



## 2022年9月期第2四半期 キャッシュ・フローの状況

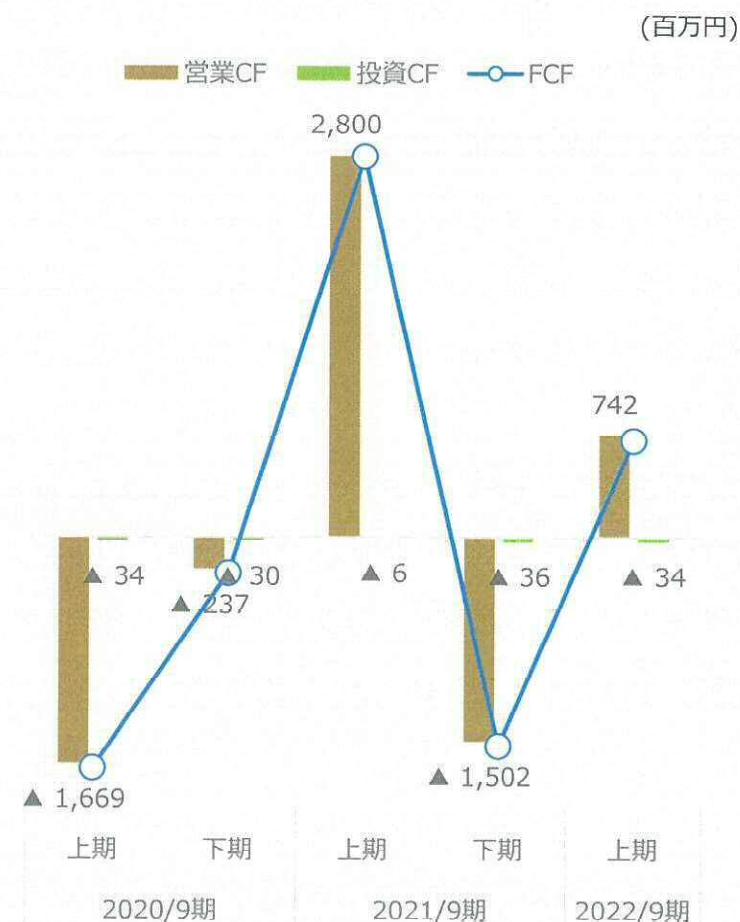
- 営業CFは、税前当期純利益の増加を背景に増加。投資CFはほぼ例年通りの展開
- FCFも営業CFの増加に伴い大幅に増加。ただし、これは大型案件が上期に集中したことも要因の一つ。下期は前下期と同様、FCFは一時的にマイナスとなる可能性は否めず

### キャッシュ・フローの状況の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期 2Q
営業CF	▲1,906	1,298	741
税前当期純利益	207	594	824
売上債権/仕入債務増減	▲1,508	439	▲60
その他	▲605	263	▲23
投資CF	▲63	▲42	▲33
FCF	▲1,969	1,255	708
財務CF	238	▲298	▲111
有利子負債の純増減	▲95	▲210	▲26
株式の発行による収入	399	—	—
その他	▲65	▲87	▲85

\* FCF=営業CF+投資CF で算出

### キャッシュフローの推移



**2****2022年9月期決算見通し**

## 2022年9月期通期業績予想①

- 従来想定を据置き、前期比増収増益を予想。主力のメディカルトータルソリューション事業では新增改築案件の拡大に加え、大型機器・設備案件も伸張と想定。大型案件が増収の牽引役
- 安定成長軌道にある狩猟型ながらストック的な案件にも引続き注力。収益基盤の強化を追求
- 半期別に見ると、下期は対上期比で減収減益となる見通し。これは売上計上が今期も上期に集中しているため。下期は次期以降のプロジェクト案件獲得に向けての仕込みに注力

### 経営成績の推移

(百万円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期 見通し	前期比較	
				差異	増減率
売上高	21,996	26,347	27,759	+1,412	+5.4%
メディカルトータルソリューション	20,970	25,235	26,694	+1,458	+5.8%
遠隔画像診断サービス	567	647	645	▲2	▲0.3%
給食	458	464	420	▲44	▲9.5%
営業利益	204	576	750	+174	+30.3%
メディカルトータルソリューション	117	463	666	+202	+43.6%
遠隔画像診断サービス	45	72	74	+1	+1.9%
給食	38	36	10	▲26	▲71.5%
調整	3	3	-	-	-
経常利益	207	595	800	+205	+34.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	120	390	520	+129	+33.0%
1株当たり当期純利益 (円)	62.51	199.92	265.32	+65.4	+32.7%

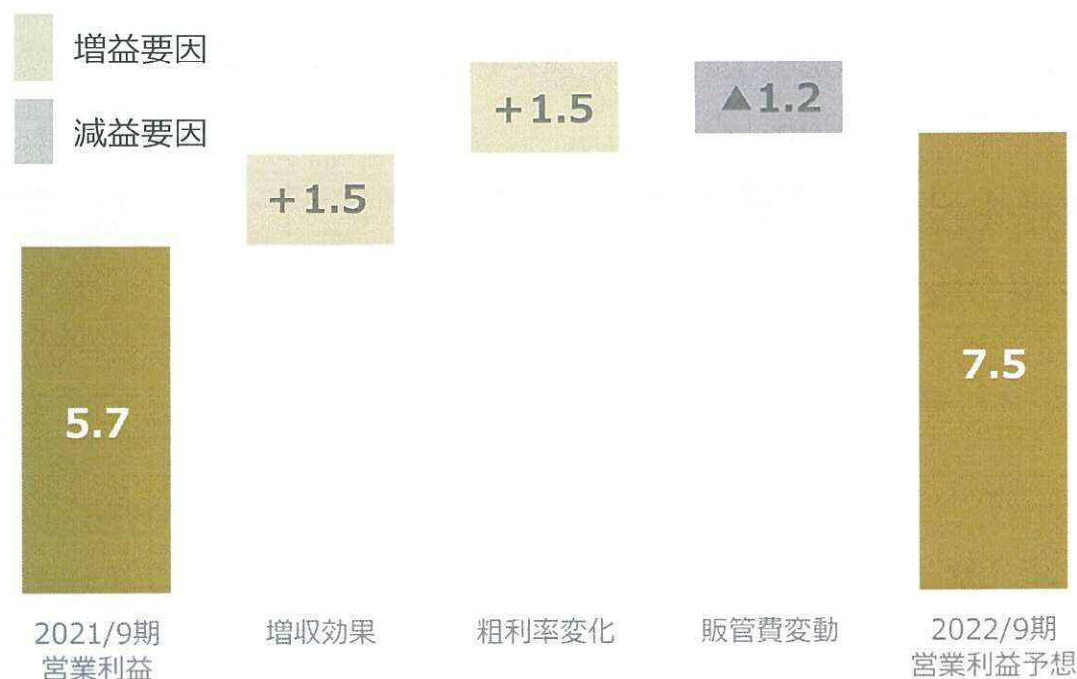


## 2022年9月期 営業利益増減要因分析

- 通期では大型案件増による増収効果や深耕営業による粗利率改善が増益を牽引する見通し。営業力強化のための人件費や営業経費の上昇はあるも、増収効果などで吸収と想定
- ただし、下期のみに注目すると、大型案件一巡の影響から、対上期比では減収減益となる見通し

### 営業利益 想定増減益分析

(億円)



- 売上高の増加 +1.5億円
  - ・医療機器の一括販売案件に加え、一括販売に準じる大型案件の伸張を想定
  - ・スポット的な期中新規案件受注も堅調に推移する見通し
- 粗利率変化 +1.5億円
  - ・深耕営業推進により総じて採算は改善
  - ・上期発生 of 低採算案件の影響もその他案件の利益率改善でカバー
- 販管費変動 ▲1.2億円
  - ・営業力強化のための継続的新卒採用
  - ・専門職を中心とした中途採用増
  - ・訪問営業再開による営業経費の上昇等

## 2022年9月期通期業績予想②

- メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売では、20億円以上の大型案件が増加する見通し。内、1件は40億円超の病院新築案件。
- 10億円未満の案件は、件数は減少するものの、平均単価は上昇を見込む

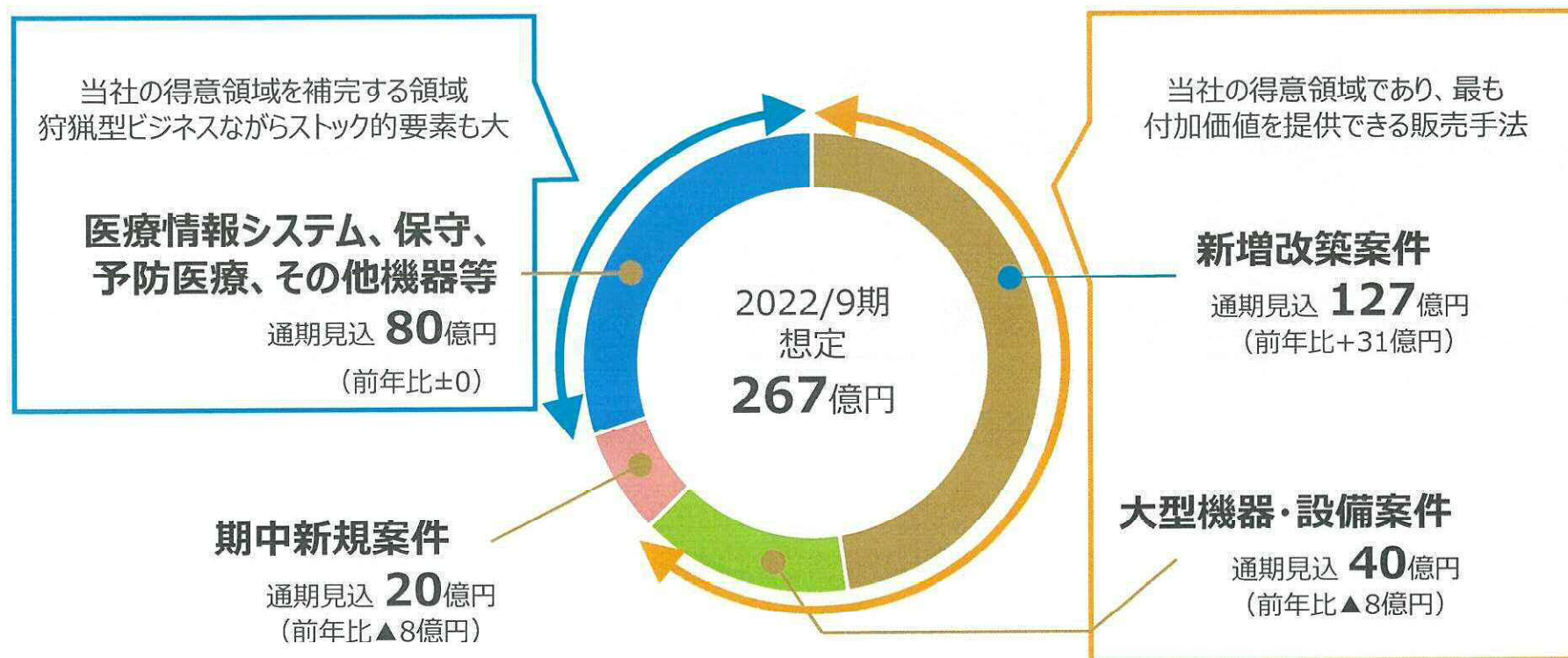
### メディカルトータルソリューション事業における病院新增改築案件向け医療機器一括販売の推移

(百万円)		2020/9期	2021/9期	2022/9期 見通し	前期対比
20億円以上	売上高	2,562	4,739	9,230	4,491
	件数	1	2	3	1
	平均単価	2,562	2,369	3,077	707
10億円以上	売上高	2,954	1,476	2,846	1,370
	件数	2	1	2	1
	平均単価	1,477	1,476	1,423	▲53
10億円未満	売上高	2,928	3,395	2,466	▲930
	件数	10	11	7	▲4
	平均単価	293	309	352	44
合計	売上高	8,445	9,611	14,542	4,932
	件数	13	14	12	▲2
	平均単価	650	686	1,212	525
事業売上に占める一括販売比率		40.3%	38.1%	54.5%	16.4pt

# メディカルトータルソリューション事業売上想定

- 2022/9期のメディカルトータルソリューション事業において、当社得意領域である新增改築案件、大型機器・設備案件は事業売上全体の過半を占める見通し。上期時点からは大型案件一巡で比率低下へ
- これに対し、得意領域を補完するストック的色彩の濃い医療情報システム・保守・予防医療他といった案件の売上は順調に積上げ。事業売上全体の約3分の1を稼ぎ出すビジネスにまで成長すると予想

メディカルトータルソリューション事業売上の案件別売上内訳

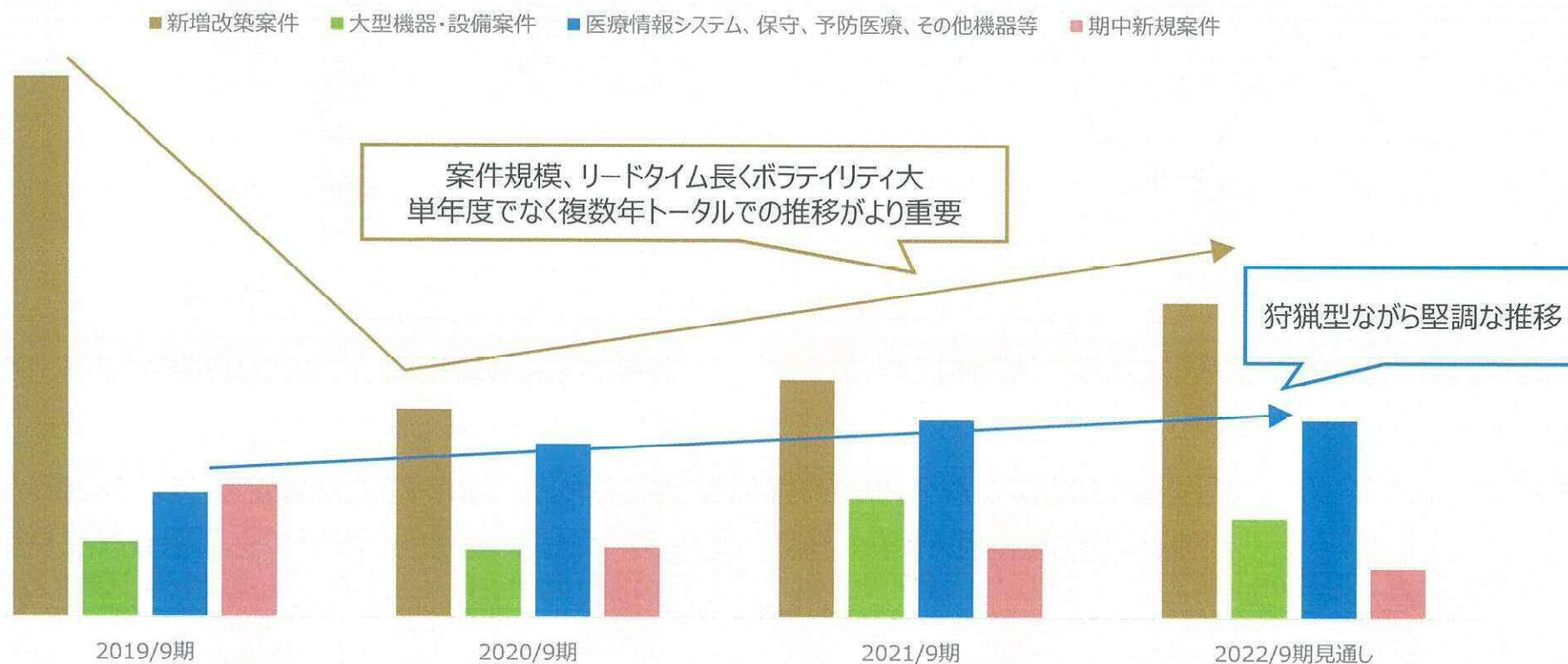




## メディカルトータルソリューション事業売上推移

- メディカルトータルソリューション事業の売上構成は徐々に変化。ただし、主力の新增改築案件はボラティリティが大きく、単年度でなく複数年で捉えるべきものとの位置づけに変化はなし。
- 一方、新增改築案件などを補完する情報システムや予防医療などのビジネスは着実に拡大。狩猟型ビジネスモデルは当社の特色ながら、ストック的色合いも増す

メディカルトータルソリューション事業売上の案件別売上推移

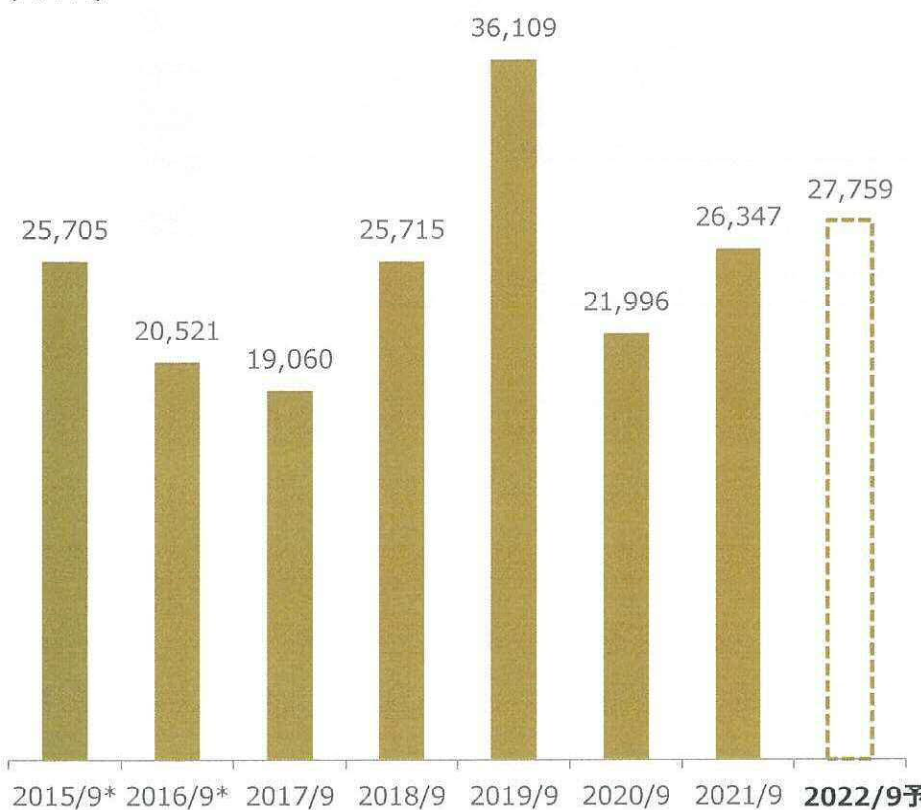


# 長期業績推移

- 狩猟型なため、業績面でのボラティリティ発生は不可避。特に、2019/9期は大型案件の売上が集中した結果、2020/9期はその反動が発生。2021/9期からは緩やかな回復基調に反転
- 2022/9期も前年比増収増益を想定。経常利益率は直近のピークに接近の見通し

### 売上推移

(百万円)



\* 単独決算

### 経常利益推移

(百万円)



## 2022/9期計画は一株当たり50円/株を想定 前期比10円の増配見込みを据置き

- 配当性向を20%程度とする安定配当方針を堅持
- 当期は業績拡大を受け、一株当たり10円の増配を想定

(円)	2020/9期	2021/9期	2022/9期	
			計画	前期比差異
1株当たり当期純利益	62.51	199.92	265.32	+65.30
1株当たり配当金	45	40	50	+10
配当性向	72.0%	20.0%	18.8%	△1.2pt

- (注) 1. 配当性向は、1株当たり配当額/1株当たり当期純利益で算出しております。  
2. 2020/9期は、普通配当40円に加え、上場記念配当5円を増配し、1株当たり45円の配当となっております。

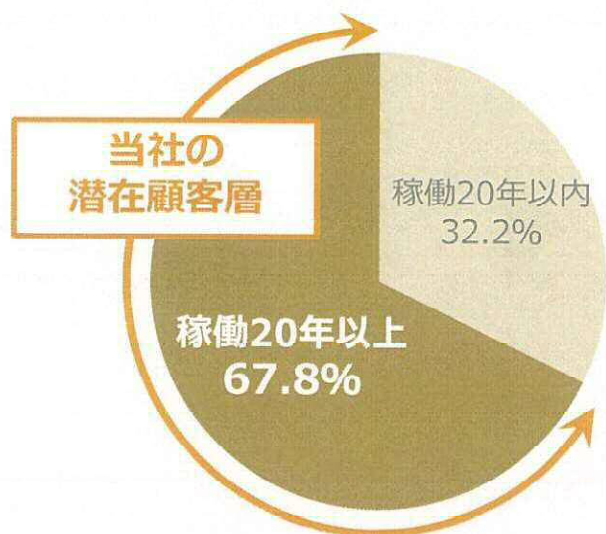


### 3 ビジネス環境と当社の対応

# ビジネス環境

- 一般病院の2/3は稼働年数が20年超。新增改築の潜在需要は依然として大きい
- 病院は、移転・新築・建替による更新（建替更新）や既築物件の増改築による更新（増改築更新）で対応。建替更新数は2016年以降減少するも、増改築更新は現実的選択肢として増加の公算大
- 建替更新・増改築更新の合計は概ね年間100件程度で比較的安定的な推移にあると推定
- 当社は趨勢的に年間およそ14～15案件を受注獲得。営業力強化によって案件数拡大の余地は大

<全国一般病院の稼働年数>



<全国一般病院の選択肢>

- 当社新增改築案件のターゲット領域
- ① 移転・新築・建替による更新  
直近5年は件数減少傾向
  - ② 既築物件の増改築による更新  
統計はないものの、現実的選択肢として増加している公算  
①+②の総数は年間概ね100件程度で推移していると推定

③ 閉廃院

出所：厚生労働省 医療施設調査  
シェアは2019年度時点の一般病院数7,246院に対して、過去20年以内の開設・再開院数より算出



## 当社対応

一括販売案件  
大型機器・設備案件



- ✓ 引続き、当社の主力領域と位置づけ
- ✓ 潜在需要への見方は変わらず  
(病院開院・再開院数の減少は  
実態の新增改築の動向とは乖離と認識)
- ✓ 営業力の強化は着実に進捗。更なる強化に注力

医療情報システム、保  
守、予防医療、その  
他機器等



- ✓ 狩猟型ビジネスながらストック的色彩
- ✓ 安定成長可能なビジネスファンクションとして確立
- ✓ 経営資源の投入により、売上拡大を計画



# 業績・財務ハイライト

決算年月		2017年9月	2018年9月	2019年9月	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期 2Q
売上高	(千円)	19,060,958	25,715,941	36,109,029	21,996,890	26,347,156	18,756,539
経常利益	(千円)	28,463	652,381	1,184,035	207,244	595,939	824,338
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	242,509	357,645	732,959	120,839	390,983	545,971
包括利益	(千円)	290,524	396,399	735,628	141,111	427,266	554,129
資本金	(千円)	123,000	331,507	331,507	536,169	539,369	539,369
発行済株式総数(自己株式を含む)	(株)	4,920	1,784,000	1,784,000	1,954,400	1,960,800	1,960,800
純資産額	(千円)	2,905,240	3,682,163	4,340,511	4,817,569	5,159,691	5,629,392
総資産額	(千円)	12,047,141	12,875,910	12,814,634	13,414,303	12,964,840	16,056,307
1株当たり純資産額**	(円)	2,870.05	2,016.04	2,376.58	2,408.78	2,567.33	2,870.96
1株当たり配当額	(円)	4,000	40.0	40.0	45.0	40.0	—
1株当たり当期純利益**	(円)	246.95	323.64	411.31	62.51	199.92	278.45
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	(円)	—	—	—	61.85	198.33	277.57
自己資本比率	(%)	23.4	27.9	33.0	35.1	38.8	34.1
自己資本利益率	(%)	9.0	11.2	18.7	2.7	8.0	10.1*
配当性向**	(%)	8.1	12.4	9.7	72.0	20.0	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲718,460	962,625	2,764,536	▲1,906,273	1,298,076	741,985
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	107,722	▲52,847	▲91,784	▲63,598	▲42,129	▲33,878
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	▲7,334	203,275	▲213,022	238,372	▲298,007	▲111,207
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	2,589,499	3,702,552	6,162,281	4,430,782	5,388,721	5,985,621
従業員数	(人)	147	153	155	157	162	164
(外、平均臨時雇用者数)	(人)	(37)	(38)	(39)	(54)	(58)	(53)

\*半期ベース

\*\*2018年9月13日付株式分割(1:200)後の発行済み株式数基準



## ご留意事項

当資料は、当社の現状をご理解いただくことを目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料に記載されている内容は、当資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断される一定の前提に基づく計画、期待、判断を根拠としております。したがって、実際の業績等は、経済情勢等様々な不確定要素の変動によって、記載の業績予想等と異なる結果になる可能性があります。実際に投資を行う際のご決定は、必ず投資家ご自身の判断に基づきなされるようお願いいたします。

株式会社レオクラン  
IRサポート担当  
TEL : 06-6387-1554  
Email : ir-support@leoclan.co.jp